

報告事項コ

平成20年度第2回教育審議会生涯学習分科会兼社会教育委員会議の概要について

平成20年度第2回教育審議会生涯学習分科会兼社会教育委員会議の概要について、別紙のとおり報告します

平成20年8月19日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

# 平成20年度第2回教育審議会生涯学習分科会兼社会教育委員会議の概要について

家庭・地域教育課

- 1 日時 平成20年7月22日（火） 午後1時30分～3時30分
- 2 場所 県立図書館 2階 大研修室
- 3 出席者 委員12名、事務局11名

## 4 議事及び審議等結果

### (1) 鳥取県における公民館振興策（案）について

- ・公民館振興策（案）について協議
- ・公民館振興策として決定
- ・8月11日に油野会長から県教育委員長に建議、8月19日の定例教育委員会に付議を予定
- ・振興策の周知、広報にあたっては、より親しみやすい名称に変更することも検討する

### (2) 鳥取県スポーツ振興計画について

- ・スポーツ振興計画（案）について協議
- ・スポーツ振興計画（案）、今後のスケジュール等を説明
- ・パブリックコメントの意見、定例教育委員会での意見等を踏まえ修正の上、次回の生涯学習分科会に再提出

### (3) その他（事務局からの連絡事項）

生涯学習分科会の今後のスケジュール等を説明

- ・決定した公民館振興策は、8月の定例教育委員会に付議
- ・次回の分科会は、11月中旬を予定

<内容>

教育振興基本計画の検討、スポーツ振興計画の検討

## 5 委員からの主な意見

### 【鳥取県における公民館振興策（案）について】

- ・社会教育団体について触れられていない。公民館との連携が取れていないこともあり、社会教育団体との連携について記載していただきたい。
- ・名称については、他県のスポーツ振興計画名を公民館に置き換えるなど、参考にしてはどうか。

### 【鳥取県スポーツ振興計画について】

- ・幼児期に関する記述がもっとあってもよいのではないか。幼児期における遊戯や遊び、指導者や環境についても取り上げた方がよいのではないか。
- ・関係部局との連携が重要であるが、連携にあたっては、生涯スポーツだけではなく、競技スポーツについても必要ではないか。
- ・障害者のスポーツについて、競技性の観点でとらえる必要もあるのではないか。
- ・どの分野においても指導者を育成するというのが大事である。例えば、競技を教えるばかりではなく、指導する方法とかに関しても指導者の育成が必要とされている。

- ・人口最小県としてのデメリットをメリットに代えるような、鳥取県独自の振興計画にして欲しい。例えば、校庭の芝生化など鳥取県独自の取り組みを計画の中に盛り込めないか。
- ・スポーツ少年団は、どの種目も全国大会を目指し練習がハードになりがち。全国を目指すのか、運動に親しむというあたりにとどめるのか。
- ・小学生については、体力、成長に見合った指導をしなければならない。
- ・「青少年健全育成の理念に基づいた活動の奨励」と同時に「競技スポーツの充実方策」として「ジュニア層の育成・強化」とあり、考え方として相反する。整合をつけた方がよい。
- ・豊かなスポーツライフの実現のためには、地域（学校、子ども会、スポーツ少年団等）との連携が必要になる。
- ・地区の大会が近づくと練習がハードになり、先生にも余裕がなくなっているのではないか。外部の指導者にお願いするとか、余裕を持って生徒対応できるような方策を。
- ・競技に走りすぎたことによる弊害もある。スポーツを文化の一つとして、広い視点で見えていく必要がある。

## 【参考】

### 〈委員名簿〉

氏名	所属・職名等	
浅川 滋男	鳥取環境大学環境情報学部教授	(欠)
油野 利博	鳥取大学地域学部教授	
石浦外喜義	鳥取城北高等学校教諭	(欠)
井上 耐子	鳥取県連合婦人会長	
入江 雅史	大山町教育委員会幼児教育課主幹兼社会教育主事	
梅木千賀子	鳥取県体育指導委員協議会理事	
北村 康男	青谷小学校おやじの会代表	(欠)
小谷 次雄	倉吉市成徳公民館長	
小林 重子	社団法人鳥取県老人クラブ連合会女性委員会委員	
土海 孝治	倉吉市立小鴨小学校長	
萩原 裕子	連合鳥取書記局職員	
福浜 隆宏	日本海テレビジョン放送株式会社アナウンサー	
水野 聖子	ガールスカウト日本連盟鳥取県支部長	
美田耕一郎	鳥取県子ども会育成連絡協議会副会長	
山田 節子	児童書を楽しむ会「つくしんぼ」代表	

### 〈事務局〉

次長、教育総務課、家庭・地域教育課、体育保健課、スポーツセンター